

医学系研究科 保健学専攻

学位プログラム： 生命医科学の社会実装プログラム（看護学・保健学）

授与する学位： 修士（看護学/保健学）・博士（看護学/保健学）

教育目標

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻の教育目標のもと、学位プログラム「生命医科学の社会実装プログラム」では以下のとおり教育目標を定めています。大学院では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と、高度で幅広い知識や実行力と社会実装できる応用力を備えた保健医療者を養成します。そのための教育目標を下記の五領域に分けて示します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・ 机上の学びからだけではなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけさせます
- ・ 自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけさせます
- ・ 多様な研究基盤と独創的なテクノロジーを駆使して新しい医療技術を開発する能力を身につけさせます

○高度な教養

- ・ 培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します
- ・ 医学研究の多様性に対応できるように異分野の研究を理解できる能力を育成します

○高度な国際性

- ・ 高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します
- ・ 英語論文による国際的な発信を常時行える能力を育成します

○高度なデザイン力

- ・ 先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にさせます
- ・ 自分自身で研究のデザインからプロトコルを作成し、実践に持ち込める能力を育成します
- ・ 臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います

○独自の教育目標

- ・ 卓抜した研究成果をあげるとともに生命医科学を俯瞰できる「研究実践力」と、その研究成果を社会応用するための知のスキルである「社会実装力」を兼備した人材を育成します
- ・ 生命医科学における様々なデータを分析し新しい知見を得る能力を高め、社会で生じる複雑な問題を解決し実践することができる人材を育成します

保健医療学はヒトのためにある学問で、実学研究を主体として学位プログラムを遂行し、社会に貢献できる人材の育成を目指します

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「生命科学の社会実装プログラム」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。保健学専攻では、医療科学の一翼を担っています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指した実践性の高い領域、生態環境や医療システムモデルの検討など社会デザイン性の高い領域、次世代の保健医療福祉の基盤となる先端科学の領域等、社会的にも重要な多彩な研究領域があります。特に本学位プログラムでは社会実装性の高い研究成果の創出を目指します。以下の学生に学位（修士（保健学）、修士（看護学）、博士（保健学）、博士（看護学））を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・ 医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている
- ・ 医療に関する深い知識、新しいことに挑戦する勇氣、研究を継続できる力を備えている

○高度な教養

- ・ 医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる
- ・ 研究チーム内において相手の気持ちを理解できる態度、プレゼンテーション力を有する

○高度な国際性

- ・ 国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している

○高度なデザイン力

- ・ 学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる
- ・ 課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築を目指している
- ・ 多種多様な人間と協調して、大きな研究をまとめることができるデザイン力を備えている

○独自の学習目標

- ・ ボーダレスデザイン、オリジナリティーを優先し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力をそなえている
- ・ 生命医科学における多次元のデータを分析し、卓抜した研究成果をあげるとともに生命医科学を俯瞰できる「研究実践力」と、その研究成果を社会応用し、社会で生じる複雑な問題を研究によって解決し実践することができる知のスキルである「社会実装力」を備えている

研究生生活を通して学習目標を達成し、企画力(Planning)、プレゼンテーション力(Presentation)、人間性(Personality)、挑戦力(Challenging)を兼ね備えることを期待します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「生命医科学の社会実装プログラム」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。柔軟な思考力、高度な医療の知識と社会への応用力、研究者としての高い倫理性が持てるような教育システムになっています。

<教育課程編成の考え方>

必要な授業科目を履修する過程において、生命医科学の入門科目、研究実践力を強化する研究科横断科目及び研究成果を社会実装する科目・実践訓練科目などを体系的に編成し、医療科学の領域で研究を遂行する基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養を身につけさせ、演習での発表や研究の進捗状況報告の過程の中で研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを自ら設定できる能力や臨床での課題を発見し解決する能力を身につけさせるとともに、他者からの視線にさらすことにより高い倫理性を身につけさせます。また、基本的に科学論文を英語で読むこと、特に博士後期課程では英語で論文を書くことが必要となるため、英語で行われる講義の受講、英語による研究発表を行わせることにより、高度な国際性を身につけさせます。

<学修内容及び学修方法>

生命医科学の社会実装プログラムは博士課程の5年一貫プログラムとなっており、プログラム履修者は博士前期課程修了後、引き続き博士後期課程に進学し、プログラムを履修します。

博士前期課程では、2年間以上在学しその間に専門科目、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目をそれぞれ所定の単位数を充足し、必要な研究指導を受けた上、指導教員から論文指導を受け修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すれば修了し、学位を授与されます。なお、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目については、研究科において履修が認められた場合、修得した単位が所定の単位として充当されます。

博士後期課程では、3年間以上在学してその間に所定の専門科目の必要な単位数を修得し、研究指導を受けた上、指導教員から助言をうけ博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すれば修了し、学位を授与します。なお、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目の履修は必要としません。

なお、教育目標のところに記載したように、研究領域で学修内容や方法がまったく異なります。一部の講義に関しては、共通の科目もあります。詳細は専攻ごとの学位プログラム版のカリキュラム・ポリシーに記載されています。どの学位課程のカリキュラムにおいても、自考力、協調性、課題解決能力が要求され、それぞれを独自の方法によって修得できる/評価できる学修体系になっています。

- ・ 生命医科学の基礎的知識や倫理的素養を学修するための講義を選択必修科目として学修します。（5年制コースのみ）
- ・ 異分野に対する理解を深め、研究実践力を強化する研究科横断型の演習及び実習、研究成果を

社会実装するために必要となる知識を身につけるための演習を必修科目として学修します。

- ・ 研究成果を社会実装する実践訓練の実習を必修科目として学修します。
- ・ 医療画像・検査、人の行動などの多次元データを分析するための演習と実習、それらを社会実装する実践的な研究を学修します。

<学修成果の評価方法>

- ・ シラバスに記載された学習目標を、筆記試験、レポートにより、その達成度を評価しますが、所属する研究領域ごとに、それぞれの特徴を生かした評価システムが構築されています。学位論文を作成することが一番大きな目標ですが、そのためのプロセス、他人との協調性、研究への積極性なども評価します。
- ・ プログラム教育については、進級審査を行い、研究実践力を有しているかを評価します。プログラム修了審査では研究実践力に加え、社会実装力を有しているかを評価します。

自主的な研究の推奨、各個人に合った指導法の導入により、大学院生が最も的確な道を選ぶことができるような指導を行います。

医学系（保健学専攻）生命医科学の社会実装プログラム カリキュラムマップ

学習目標	4つの学習目標					博士前期課程								博士後期課程																
	専門性と深い学識	最先端かつ高度な学識	高度な国際性	高度なデザイン力	独自の教育科目	1年				2年				1年				2年				3年								
						春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期					
最先端かつ高度な専門性と深い学識 ○医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている ○医療に関する深い知識、新しいことに挑戦する勇氣、研究を継続できる力を備えている	○					専門科目								特講								特講演習								特別研究発表会
高度な教養 ○医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる ○研究チーム内において相手の気持ちを理解できるやさしさ、プレゼンテーション力を有する	○		○			特論								特別研究								共通科目								
高度な国際性 ○国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している			○			高度国際性涵養教育科目																								
高度なデザイン力 ○学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる ○課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築を目指している				○		特別研究発表会								高度教養教育科目								生命医科学の社会実装プログラム授業科目 研究コミュニケーション力涵養1， 研究コミュニケーション力涵養2， 医歯薬学の入門1，医歯薬学の入門2								
独自の学習目標 ○ボーダレスデザイン、オリジナリティーを優先し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力を備えている				○																										
○生命医科学における多次元のデータを分析し、卓抜した研究成果をあげるとともに生命医科学を俯瞰できる「研究実践力」と、その研究成果を社会応用し、社会で生じる複雑な問題を研究によって解決し実践することができる知のスキルである「社会実装力」を備えている					○	生命医科学の社会実装プログラム授業科目 研究コミュニケーション力涵養1， 研究コミュニケーション力涵養2， 医歯薬学の入門1，医歯薬学の入門2								生命医科学の社会実装プログラム授業科目 異分野領域実習1，異分野領域実習2，市場調査演習， 知財戦略演習，規制科学演習，社会実装実践訓練																

※生命医科学の社会実装プログラム授業科目以外の科目については、所属する研究領域によって異なります。